

## 「家庭ごみ有料化 自治体事例集」

## 「家庭ごみ有料化に関する都道府県アンケート調査報告書」

2007年度地球環境基金助成事業で発刊

集めて使うリサイクル協会では、2007年度地球環境基金助成事業の一環としてとして家庭ごみの有料化に関する調査を実施してきましたが、このほどその結果をまとめた2冊の冊子がまとまりました。

◆18自治体・一部事務組合の  
有料化実践事例を紹介

「家庭ごみ有料化 自治体事例集」は、家庭ごみ有料化を実施している18の市町村・一部事務組合を取材し、有料化の方法・仕組み・効果・課題などをまとめたものです。いわゆる単純従量制だけでなく、他の方式についても取り上げていること、人口規模についても百万都市から数千人の村までさまざまな自治体の現状を取材していることが特徴です。ご紹介させていただいたのは次の市町村等です。

<単純従量制>福岡県北九州市、北海道釧路市、東京都日野市、京都府舞鶴市、東京都清瀬市、福島県白河市、石川県七尾市、高知県南国市、北海道伊達市、長野県波田町、北海道中札内村  
<超過分有料制>長野県長野市、長崎県佐世保市、岐阜県高山市、千葉県君津市  
<二段階有料制(累進従量制)>長野県上伊那広域連合、岐阜県関市  
<定額制>千葉県御宿町

## ◆全国の市町村における有料化の状況をマップで紹介

もう1冊の「家庭ごみ有料化に関する都道府県アンケート調査報告書」は、都道府県ごとに家庭ごみ(燃えるごみ)を有料化している自治体が一目でわかるマップを掲載していることが大きな特徴です。これを見ると、岩

手県ではまだ1つも有料化している市町村がない一方、佐賀県や長崎県ではすべての自治体有料化を実施しているなど、都道府県によって有料化の状況に大きな違いがあることがわかります。また、各都道府県に有料化に対する考え方を尋ねたところ、「基本的には各市町村が判断すべき問題だが、どちらかといえば有料化は望ましい」と回答したところが83.3%を占め、「どちらかといえば有料化は望ましくない」と答えた都道府県はゼロでした。

昨年には環境省から「一般廃棄物処理有料化の手引き」(いわゆる「有料化ガイドライン」)が公表されたこともあり、都道府県のこのような基本的姿勢もあって、各市町村における家庭ごみ有料化の動きは今後ますます活発になっていくものと思われます。

## 2冊の冊子を差し上げます！

「家庭ごみ有料化 自治体事例集」「家庭ごみ有料化に関する都道府県アンケート調査報告書」をご希望の方に無料で差し上げます(送料も無料)。個人の方は各1部、自治体等団体の方は各5部までとさせていただきます。ご希望の方は特定非営利活動法人集めて使うリサイクル協会まで、ファックス(06-6209-6685)またはメール(info@r-kyokai.org)でお申し込みください。なお、在庫切れの際はご容赦ください。



# 2008年度も地球環境基金助成事業を実施

## 「ごみ有料化を恒常的なごみ減量とリサイクル促進に結びつけるための調査と実践」

集めて使うリサイクル協会は今年度も地球環境基金助成事業として、「ごみ有料化を恒常的なごみ減量とリサイクル促進に結びつけるための調査と実践」と題するプロジェクトを実施することになりました。このテーマでの取り組みは今年度が3年目となり、より実践的な活動を展開していきます。その柱の1つが、以下にご案内する「大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ」です。

大阪市における1人当たりごみ排出量(2005年度、環境省資料)は1711gで、政令指定都市の中では群を抜く1位となっています(ちなみに広島市は1000g、横浜市は1074g)。大阪市もこの現状を打開しようと努力していますが、市民自身のなしにはごみ減量を進めることはできません。そこで企画したのが、この連続ワークショップです。毎回、ごみ問題に関わっている市民団体・行政・事業者などをゲストに迎え、大阪市の現状を知るとともにごみ減量の先進事例に学びながら、参加者みんなで「大阪市への家庭ごみ20%減量提案」をつくり市に提案します。大阪市からも毎回出席していただく予定で、パートナーシップによって「ごみ排出量ワースト1」の汚名を返上し、環境先進都市・大阪に向けた具体的な動きを生み出そうという取り組みです。ぜひご参加ください!

### 大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ 開催概要

- <第1回> 2008年7月25日(金) 午後1時30分～4時30分(開場1時)  
テーマ/大阪市のごみの現状を知る  
ゲスト/大阪市環境局事業部企画担当・減量美化担当、テレビ局元報道デスク・岸本文利氏
- <第2回> 2008年8月29日(金) 午後1時30分～4時30分(開場1時)  
テーマ/家庭ごみの分別品目と減量の関係  
ゲスト/名古屋市環境局分別推進担当 報告/ごみゼロネット大阪
- <第3回> 2008年9月26日(金) 午後1時30分～4時30分(開場1時)  
テーマ/家庭ごみの有料化と減量効果  
ゲスト/箕面市資源循環課 報告/集めて使うリサイクル協会
- <第4回> 2008年10月31日(金) 午後1時30分～4時30分(開場1時)  
テーマ/ごみとリサイクルの現場からの提案  
ゲスト/市民団体・リサイクル事業者・ごみ収集事業者ほか
- <第5回> 2009年1月29日(木) 午後1時30分～4時30分(開場1時)  
テーマ/大阪市の家庭ごみ20%減量のための提案発表記念シンポジウム  
ゲスト/大阪市環境局ほか

コーディネーター/森住明弘氏(大阪ごみを考える会代表理事)

- ◆会場 大阪・天満橋 OMMビル2階会議室(地下鉄谷町線天満橋駅、京阪本線天満橋駅下車すぐ)  
\*7月25日は第4会議室、8月29日は第3会議室、9月26日・10月31日は第5会議室、1月29日は第4・5会議室。
- ◆入場料 無料(事前申込制。全回ご参加可能な方を優先とさせていただきます。定員に空きがある場合は各回のみのご参加も可能です。詳しくはお問い合わせください)
- ◆定員 第1～4回は各回30名、第5回は60名。
- ◆主催 大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ実行委員会(参加団体/NPO法人ごみゼロネット大阪、NPO法人大阪ごみを考える会、NPO法人タウンズメン21、せいわエコサポーターズクラブ、NPO法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク、森之宮・環境をよくする会、環かんネットワーク、NPO法人集めて使うリサイクル協会 実行委員長=惣宇利紀男(NPO法人ごみゼロネット大阪代表理事、大阪市立大学名誉教授))

<お申し込み・お問い合わせ>NPO法人集めて使うリサイクル協会 (担当:北井)

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル4階

TEL. 06-6209-7155 FAX. 06-6209-6685 メール info@r-kyokai.org

# 今年度通常総会 & 情報交流会を開催

去る5月23日、特定非営利活動法人集めて使うリサイクル協会の平成20年度通常総会と情報交流会が開催されました。総会には企業会員15社16名と個人会員7名の計23名が出席しました（他に委任状提出15名）。

## 1. 通常総会

総会では、まず酒パックリサイクル促進協議会発足に伴って当協会が事務局を担うなどの第1号議案「平成19年度事業報告について」と、監査役の監査報告を受けて第2号議案「平成19年度収支決算について」が一括承認されました。また、第3号議案「平成20年度事業計画について」、第4号議案「平成20年度収支予算について」、第5号議案「役員の一部変更について」がいずれも異議なく可決されました。

平成20年度事業計画については、次のような事業計画が承認されました。

### (1) 資源回収・再生促進のための仕組みづくり事業

パックマーク事業、ALMprj08（印刷工業会委託事業）、酒パックリサイクル促進協議会、ごみ有料化を恒常的なごみ減量と古紙リサイクル促進に結びつけるための調査と実践（地球環境基金助成事業）、グリーン購入の促進

### (2) 資源リサイクルによる障害者作業所活性化事業

リサイクルロンド事業、アルミパックリサイクル事業

### (3) 広報活動に関する事業

セミナー・シンポジウム等の開催、ホームページの積極的な運用、協会報の充実

## 2. 情報交流会

総会の後開催された情報交流会では、まず特別報告として、当協会による2007年度地球環境基金助成事業の報告、古紙ジャーナル社の本願静雄代表による「古紙の現状について（国内・海外の古紙事情）」の報告、新しく企業正会員になられた（株）トベ商事代表取締役の戸部昇氏による「弊社の事業とそれを取り巻く状況について（ビン・カン・ペット・古紙ほか）」の報告が行われました。

その後、参加された各社からの現状報告などがあり、引き続き開催された懇親会も含め、活発な情報交換が行われました。



### (1) 古紙の現状について（国内・海外の古紙事情）

#### ～古紙ジャーナル社・本願静雄代表

本願氏はまず、わが国における古紙回収量・古紙回収率の推移について、右のような表を示して説明しました。1990年代後半以降、回収量・回収率はほぼ順調に伸び続けていることがわかります。特に2001・2002年は、回収率が前年比4%近く増加し、2002年には回収量が2000万トンの大台に乗りました。

続いて、中国向け輸出価格の推移のグラフが示されました。これによると、新聞、雑誌、段ボールとも2001年の後半以降ほぼ右肩上がりに上昇を続け、とりわけ2007年に入ってから急激な上昇が続ききました。ただ、段ボールについては2008年に入ってから下落傾向にあり、雑誌の価格上昇も落ち着いてきました。

1995年以降の古紙回収量の増減等の推移

年	回収量の増減 (万トン)	回収率の増減 (%)	回収量 (万トン)	回収率 (%)
1995	57	-0.1	1,547	51.6
1996	29	-0.3	1,577	51.3
1997	78	1.8	1,654	53.1
1998	2	2.2	1,657	55.3
1999	50	0.4	1,706	55.7
2000	127	2.0	1,833	57.7
2001	79	3.8	1,912	61.5
2002	93	3.9	2,005	65.4
2003	39	0.7	2,044	66.1
2004	107	2.4	2,151	68.5
2005	81	2.6	2,232	71.1
2006	52	1.3	2,283	72.4
2007	22	1.2	2,304	73.6

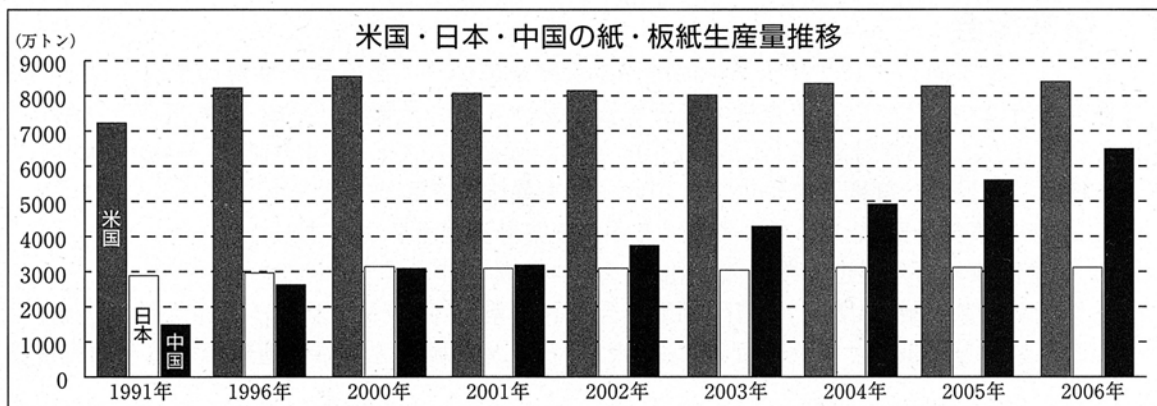
（注）本表は、古紙回収量の増減等の推移を示すものであり、回収率の増減等は、回収量の増減率を示すものではありません。



2007年における中国の国別古紙輸入の状況を表すグラフでは、アメリカが全体の41.4%（928万トン余）を占め、日本はこれに次ぐ第2位の14.1%（316万トン余）でした。

世界の企業別の紙・板紙生産量（2005年）については、1位のインターナショナルペーパーが1576万トン、2位のストラエンソが1432万トン、日本企業では王子製紙が818万トンなどとなっており、中国企業はまだ下位に位置しています。しかし、ナインドラゴンが2007年の生産量535万トンが2009年には1015万トンへ、リー&マンは2006年155万トンが2009年には490万トンへと、それぞれ飛躍的に伸びる見通しです。

右図はアメリカ・日本・中国の紙・板紙生産量推移を表したものです。アメリカと日本の生産量は1990年代はじめから頭打ちとなっているのに対し、中国は着実に伸び続けていま



す。本願氏は、「いずれ中国の生産量がアメリカを追い抜く」と予測しています。

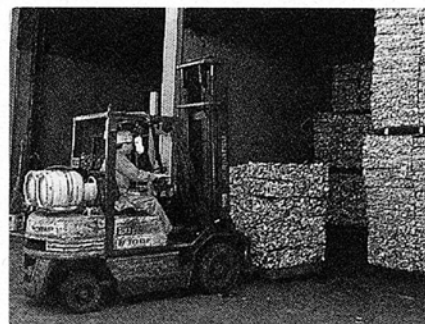
\* 2つの図表は、いずれも古紙ジャーナル社より提供いただいた資料から転載させていただきました。

## (2)新会員・(株)トベ商事の業務内容～代表取締役・戸部昇氏

(株)トベ商事は1893(明治26)年、空きびん回収販売業「戸部商店」として創業し、以来1世紀以上にわたってさまざまな資源のリサイクル事業に取り組んでいます。取り扱う領域は、リターナブルびんの洗浄、ワンウェイびん・缶・ペットボトル・廃プラスチックの収集・運搬・選別・中間処理、産業廃棄物の収集・運搬・処理と多岐にわたっています。

戸部氏は、創業の経緯について「国産のビールが次第に国民の間に浸透し、売れ行きが伸びるに従って、回収・再利用しないと追いつかなくなった」と語りました。また、「昭和30年代後半から40年代にかけて新びんがどんどん生産されるようになり、回収が滞り始めた。その後びんの生産量は最盛期の3分の1にまで激減し、洗びんだけでは経営が成り立たなくなったことから、びん・缶・ペットボトルなどを扱うようになった」とのことです。

容器包装リサイクル法が施行される6年も前の1991年に、東京で初となるペットボトルの資源化工場(選別されたペットボトルをフレーク状に破碎加工・洗浄・乾燥し、検査のうえ出荷する)を稼働させるなど、常に時代のニーズに即応したリサイクルの受け皿づくりを進めています。現在は回収したペットボトルをチップ状にする回収機を都内に100台近く設置しています。この秋からは、紙容器のリサイクルを首都圏において本格的に始める予定です。また、自動販売機から排出されるびん・缶・紙コップ・紙パックを回収してリサイクルルートに乗せる取り組みにも力を注いでいます。戸部氏は、「これからもさまざまな資源物の回収・資源化のシステムを確立して、皆さんが気軽に利用できるようにしていきたい」と抱負を語ってくれました。



缶の処理量は都内最大級の1日約30トン。



1991年にペットボトルの資源化工場を稼働。

**会員募集中!** 入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私たちの仲間になってください!

会員区分	年会費(非課税)
団体	正会員 60,000円
	賛助会員 10,000円
個人	正会員 6,000円
	賛助会員 1,000円

●「協会報」では、会員企業各社の環境活動や環境保全型商品の紹介を行っています。どんどん情報をお寄せください。

Eメール [info@r-kyokai.org](mailto:info@r-kyokai.org) HP <http://www.r-kyokai.org/>